

1. チュニス・エルマナール大学附属チュニス医療技術高等学院（ISTMT）との MOU 締結



チュニジア共和国にあるチュニス・エルマナール大学および エル・マナール大学附属チュニス医療技術高等学院（ISTMT）と臨床工学国際推進財団とがチュニジア共和国在日日本国大使館の清水信介大使同席で MOU（基本合意書）を締結いたしました。この記者会見の様子が地元 TV 局で放送されました。

高度な医療機器を使用した治療の需要が高まりつつあるチュニジア共和国の要請を受け、医療機器を適切に取り扱うことができる技術者を育成するため、国内の国立大学で初となるバイオメディカルエンジニアリング BME コースが ISTMT UTM に設置されました。BME コースの育成カリキュラムや講義シラバスは ISTMT UTM と 当財団が共同で開発しました。

今後、当財団から国内の臨床工学技士の講師派遣や、現地教員への指導を行う予定です。日本の臨床工学技士のような臨床業務に関わる資格の創設にはまだ時間がかかるため、当面は医療機器の保守点検や管理が主な業務となる見込みですが、学生は医学と工学の両者を学び、病院や医療機器メーカーへの就職を目指します。

2. タンザニア ドドマ大学における医療人材育成コースの設立検討

タンザニアのカシム・マジャリワ首相、ルワンダ在日タンザニア大使、元外務副大臣/アフリカ開発協会 会長の矢野先生らと会談を行いました。マジャリワ 首相は日本臨床工学技士会および臨床工学国際推進財団がドドマ大学における ME 人材育成を支援することに大変お喜びでした。ME 人材育成はタンザニア大統領から要望されている案件でもあり、首相より当プロジェクトに対して、国をあげて全面的に協力するとのお言葉をいただきました。

その後、2023年5月、国立国際医療研究センター（NIGM）による厚生労働省公募事業に、当財団の「タンザニア連合共和国における医療機器管理体制構築に向けた医療人材育成事業」が採択されました。



3. TICAD8

TICAD：Tokyo International Conference on African Development 日本とアフリカ、国際社会の指導者が、アフリカ開発の在り方と具体的取り組みを議論・合意する国際フォーラム。日本政府が主導し、国連、国連開発計画、世界銀行およびアフリカ連合委員会と共同で、1993年来、計8回開催されている。

今回の TICAD8 では、日本側より、医学と健康の分野の4つのプロジェクトが発表されました。

- 1、弁膜性心疾患の治療のために日本で発明・開発されたカテーテル「バロン井上」の導入と技術移転。INOUE バルーン/東レ・メディカル。
- 2、チュニジアで製造された最初の Covid-19 検査キットの製造と販売。感染症迅速検査キット/ジー・キューブ。
- 3、チュニジアを中心とするアフリカにおける医療技術者の育成。臨床工学技士（CE or ME）育成支援事業/臨床工学国際推進財団。
- 4、日本とチュニジアの大学が共同でトイレタリーの開発とマーケティングを行うプロジェクト。胸部 X 線診断 AI サポートシステム/NTT データ。

記者会見の場が用意され（現地時間8月26日11時～）、日本の新聞にも報道されました。

産経新聞（8月25日配信）「チュニジアで交流強化 アフリカ開発協会が取り組み発表へ。人材育成では医療機器の保守点検などを担う技術者を育成するコースが現地の大学附属の高等学院で昨年開講し、日本の臨床工学国際推進財団が協力する。」

TICAD8 閉幕後、経産省兼内閣府副大臣の中谷真一氏より、経産省保健・医療関係分野における枠組み活用を要請され、そして TICAD8 の場で 岸田

総理（オンライン参加）より、「人材育成」を柱とする、3年間で4兆円のアフリカ資金協力援助が提案されたことは、大きな話題となりました。